

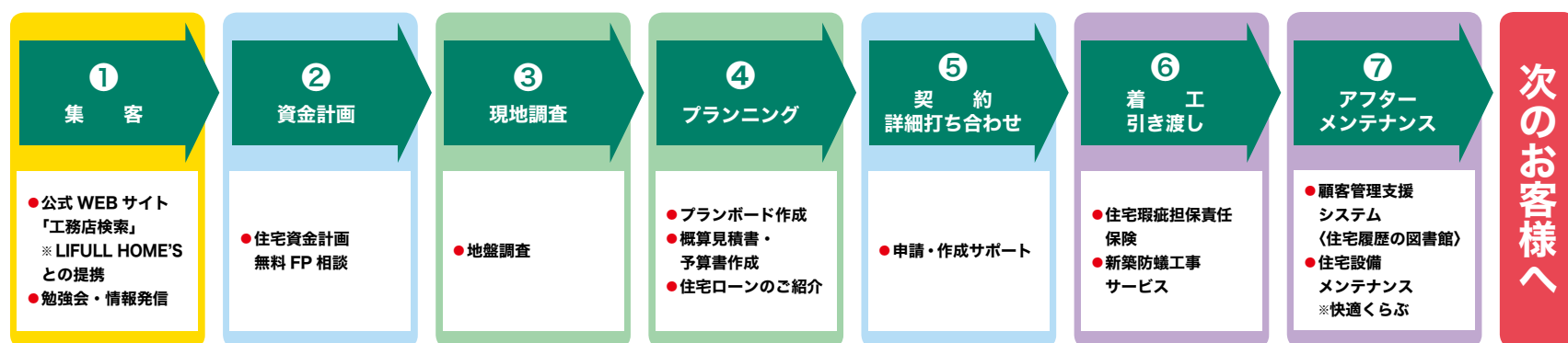


CONTENTS	●快適住実の家 サポートメニューのご紹介…p.1	●おさえておきたい！平成 30 年度【フラット 35】の変更内容を確認！／●平成 30 年度上期各地で開催するジャパン建材フェア 開催日程…p.2
	●トップ対談…p.3	●JK 木構造・木質化グループ 事例ご紹介／●木質構造の設計情報を共有する会一般社団法人設立 2 周年記念公開セミナー報告…p.4
	●第 39 回ジャパン建材フェア「住まい方・暮らし方コーナー」連動企画 ホントに安心？耐震ポイントチェック！…p.5	●イチオシ！Bulls：超軽量 金属屋根シリーズ…p.7
	●合板のプロがおすすめする ジャパン建材の商品紹介① エコブランド J-GREEN…p.8	●商品情報 ●合板天気図

快適住実の家 サポートメニューのご紹介

CREATE MORE COMFORT

『快適住実の家』は〈営業支援〉と〈国策対応〉の二つを軸に、工務店様の集客からアフターメンテナンスまで家づくりに係る全ての業務を支援するサービスを取り揃えています。営業局面において必要なサービスをぜひご活用ください。本誌では、今年度に注力していく新しい取り組みについて、ご紹介いたします！



※正式リリース前のサービス

研修会・セミナーの全国展開

お施主様へのご提案に役立つ勉強会を開催いたします。昨年度は主に関東圏にて実施して参りましたが、今年度は全国主要拠点での開催を予定しています。

具体的には、住宅営業の基礎的なセミナーから応用研修、WEB マーケティングセミナーや助成金活用セミナー、そして構造と地盤の基礎を学ぶ【構造塾】等です。

会員様には詳細のスケジュールが決まり次第、DM や FAX、メルマガ等でご案内をいたします。

LIFULL HOME'S との提携※

この度、株式会社 LIFULL と提携し、不動産・住宅情報のポータルサイト「LIFULL HOME'S」に『快適住実の家』会員工務店様をご紹介する企画を進めております。

ポータルサイト上での宣伝広告、会員工務店様をご紹介する特設サイト等、エンドユーザーと工務店の接点をより作り出す取り組みを行って参ります。

オーナーズクラブの導入※

『快適住実の家』会員工務店様のお施主様向けに、暮らしに役立つ情報や優遇制度をご紹介するオーナーズクラブ（快適くらぶ）の導入を検討しております。

会員工務店様で家を建てることのメリットとしてご案内でき、お施主様との付き合いをより強固にするための営業ツールとして活用できるよう企画をしております。詳細が決まりましたら改めてご案内をいたします。

『快適住実の家』とは

ジャパン建材株式会社が運営する、地域に寄り添う親しみやすさと、確かな技術を持った工務店様を支援する会です。「あなたの街に『匠（たくみ）』は居ます。」をブランドメッセージとして、「工務店」の持つ魅力をエンドユーザーに伝えることに全力で取り組みます。

お問い合わせ先 TEL：03-5534-0651（『快適住実の家』本部事務局）

おさえておきたい！平成 30 年度【フラット 35】の変更内容を確認！

平成 15 年 10 月の登場以来、【フラット 35】は 90 万組を超えるお客様にご利用頂いております。私たちのグループ会社であります「㈱ハウス・デポ・パートナーズ」も、モーゲージバンクとして【フラット 35】を取り扱っており、平成 19 年 4 月から現在までに約 13,000 組のお客様にご利用い

ただいております。本年 4 月より【フラット 35】の制度が一部改正されています。今まで以上に使いやすく、魅力ある制度となっています。制度変更を知って、お客様に住宅ローンの提案も行っていきませんか？きっと、貴社と同業他社との差別化につながると思います。

変更点 1

【フラット 35】地域活性化型の拡充
～地域活性化型に「空き家活用」を新設～



通常の【フラット 35】S との併用が可能

昨年、【フラット 35】に「子育て支援型」「地域活性化型」が新設されました。これは、子育て支援や地域活性化について積極的に取組みを行っている地方公共団体と住宅金融支援機構が提携をして、住宅取得に対する地方公共団体による補助金交付等とセットで【フラット 35】の借入金利を **5 年間 0.25%引き下げる** というものです。
この制度を活用するためには、地方公共団体と住宅金融支援機構が提携していることが条件になります。また、地方公共団体によって諸条件が異なっておりますので、事前にご確認ください。

【フラット35】子育て支援型・地域活性化型が利用できる地方公共団体の事業の概要

	地方公共団体が実施する事業の概要 ※ 事業の詳細は、各地方公共団体が、地域の実情を踏まえて個別に決定します。
【フラット35】 子育て支援型	次のいずれかの場合における補助金交付等の財政的支援 ●若年子育て世帯が住宅を取得する場合 対象となる子育て世帯の要件(子の年齢等)は、各地方公共団体が個別に定めます。 ●若年子育て世帯と親世帯が同居または近居するために住宅を取得する場合 対象となる子育て世帯・親族世帯の家族構成、同居を行うために必要な住宅の要件、近居の場合の距離等は、各地方公共団体が個別に定めます。

変更点 3

【フラット 35】借入対象費用の拡充
～借入対象となる費用を拡充しました～

「【フラット 35】は確かにいい商品ではあるけど、諸費用なども含めてローン組みが出来ないから別途諸費用ローンが必要なんだよなあ…」ローン相談を受けた際、時々耳にする言葉です。
確かに従来の【フラット 35】では、仲介手数料（土地購入から始まる場合）や司法書士へお支払いする手数料、火災保険や融資手数料などの諸費用は【フラット 35】に組み入れることが出来ませんでした。今回は、下記の費用について新たに借入れの対象費用として組み込めることになっています。
「諸費用」としては比較的大きな金額となる費用の多くが、今回の制度変更で新たに融資の対象になっています。お客様の当初ご負担を軽減できるようはかれておりますので、事業者様も今まで以上に【フラット 35】をお客様に勧めやすいと思います。

ここが変わった

新たに、7 項目がお借り入れの対象費用になりました

- 金銭消費貸借契約証書に添付した印紙代（お客様ご負担分）
- 仲介手数料
- 既存住宅売買瑕疵保険付保に係る費用（中古住宅購入のみ）
- 登録免許税
- 司法書士報酬または土地家屋調査士報酬（登記に係る費用）
- 融資手数料
- 火災保険料（一部商品除く）及び地震保険料

変更点 2

【フラット 35】リノベの制度変更



「【フラット 35】リノベ」ってどういうもの？

【フラット 35】リノベ」とは、下記の「お客様が中古住宅を購入して、性能向上リフォームを行う」または「住宅事業者により性能向上リフォームが実施された中古住宅を購入する」場合を言います。国策である「中古住宅・リフォーム市場の活性化」及び「住宅ストックの質の向上」をはかることを目的として、これらに該当する際にお借入金利を一定期間 **0.5%引き下げる** 制度です。

メリット

- 省エネ性能や耐震性能など住宅性能に優れた中古住宅を取得できること
- 性能については第三者機関が適合審査を行ったお墨付きであること
- 通常の【フラット 35】S より大きな金利引き下げ（0.5%）を受けられること

ここが変わった

金利 B プラン（当初 5 年間 0.5%金利引き下げ）の省エネルギー性の技術基準に新たな基準を追加

【フラット35】リノベ（金利Bプラン）

性能項目	技術基準
省エネルギー性	(1) 断熱等性能等級4の住宅
	(2) 一次エネルギー消費量等級4以上の住宅
	(3) 全居室の開口部に一定の断熱改修が実施された住宅(リフォーム工事前の住宅が断熱等性能等級3または省エネルギー対策等級3の場合に限ります。)
	(4) 全居室の開口部および住宅全体の床・外壁・屋根(天井)のいずれか1か所以上に断熱改修が実施された住宅
	(5) LDKの開口部の断熱改修が実施され、かつ、1種類以上の高効率化等設備への交換が実施された住宅
耐震性	(6) LDK以外の居室1室以上の開口部の断熱改修が実施され、かつ、2種類以上の高効率化等設備への交換が実施された住宅
	(7) 耐震等級(構造躯体の倒壊等防止)2以上の住宅
バリアフリー性	(8) 免震建築物
耐久性・可変性	(9) 高齢者等配慮対策等級3以上の住宅
	(10) 劣化対策等級3の住宅で、かつ、維持管理対策等級2以上の住宅(共同住宅等については、一定の更新対策が必要)

変更点 4

【フラット 35】
～アシューマブルローンなどの制度変更～



「アシューマブルローン」ってなに？

【フラット 35】で**長期優良住宅を取得した場合にのみ適用**されている制度で、返済途中で今お住まいの長期優良住宅を売却する場合に、新たな購入者に【フラット 35】の債務を引き継ぐことが出来る住宅ローンのことを言います（新たな購入者の同意が必要であること、住宅金融支援機構による所定の審査があることなどの注意点もあります）。

メリット

新たな住宅購入者は、住宅を売却する人が利用していたお借入金利のまま【フラット 35】の返済を引き継ぐことが出来るので、そのときの金利情勢によっては、新たに住宅ローンを借りるよりも低い金利で住宅ローンの返済を行えます。

ここが変わった

- 名称が「金利引継特約付き【フラット 35】」に変更になりました
- 債務継承の回数制限を撤廃しました（従来は 1 回のみ）

【フラット 35】についてのご不明な点は

各地の JK サポートセンターもしくは（株）ハウス・デポ・パートナーズまでお気軽にお問い合わせください

平成 30 年度上期ジャパン建材フェア開催日程

●詳細は事務局にお問合せください。

展示会名	開催日	事務局	開催場所
第 18 回鹿児島・宮崎ジャパン建材フェア	5 月 12 日 (土)	鹿児島営業所	オロシティセントロメッセ
第 15 回北九州・山口ジャパン建材フェア	5 月 19 日 (土)	北九州営業所	北九州西日本総合展示場
第 20 回宇都宮ジャパン建材フェア	6 月 8 日 (金)	宇都宮西営業所	マロニエプラザ
第 20 回名古屋ジャパン建材フェア	6 月 9 日 (土)	名古屋営業所	ポートメッセなごや
第 33 回高崎ジャパン建材フェア	6 月 14 日 (木)	高崎営業所	ビエント高崎 ビッグキューブ
第 20 回長崎ジャパン建材フェア	6 月 16 日 (土)	長崎営業所	長崎営業所特別会場
東北ジャパン建材フェア 2018	6 月 16 日 (土)	仙台営業所	夢メッセみやぎ
第 26 回姫路ジャパン建材フェア	6 月 22 日 (金)～ 23 日 (土)	姫路営業所	姫路みなとドーム
第 40 回ジャパン建材フェア	8 月 24 日 (金)～ 25 日 (土)	営業推進部	東京ビッグサイト

協和木材 株式会社

【会社概要】

本社 / 東京営業所 東京都江東区東陽 5-30-13
東京原木会館
塙 工 場 福島県白河郡塙町
集 成 材 工 場 福島県白河郡塙町
新 庄 工 場 山形県新庄市
資 本 金 1 億円
従 業 員 数 267 名
年 商 67 億 9,000 万円（平成 29 年）

【歩 み】

1953（昭和 28）年 協和木材を創業
1963（昭和 38）年 第一工場建設
杉、松、檜材等の製材製品の製造を開始
1973（昭和 48）年 法人改組し、株式会社とする
1989（平成 元）年 第二工場を建設
杉材製品の量産を開始
2012（平成 24）年 杉集成材工場稼働開始
2017（平成 29）年 新庄工場を稼働開始

代表取締役社長

佐川 広興 様

さがわ ひろおき

【プロフィール】

1946（昭和 21）年 福島県生まれ
1969（昭和 44）年 早稲田大学政治経済学部卒
家業の製材業に従事
1973（昭和 48）年 協和木材株式会社を設立
専務取締役に就任
1984（昭和 59）年 同社 代表取締役に就任
2011（平成 23）年より国産材製材協会会長に就任、福島県ブランド材生産協同組合理事長、福島県木材協同組合連合会副会長、一般社団法人日本 WOOD.ALC 協会理事、木材表示推進協議会副会長としても活躍。



一番身近にある豊富な国産の山林資源を製品にして、市場に出しています！

国産の製材品販売を開始

小川 ご創業の経緯から、お聞かせいただけますでしょうか。

佐川 かつての営林署、今の森林管理署を中途退職した私の父が創業し、近隣の山主から立木を買って伐り出した丸太を製材工場や原木市場に販売することを始めました。

小川 お父様ご自身は、製材はしていってしなかったのですか。

佐川 はい、その後、父は、事業を軌道に乗せ、昭和 38（1963）年に自ら工場をもって、製材製品を製造するようになりました。

小川 木材の輸入が解禁されたのが昭和 39（1964）年ですね。国産材の製材品製造を事業とされた矢先に、国の政策で海外からどっと木材が入ってくるようになったのですか。当初からコスト競争に晒されたのではありませんか。

佐川 木材の輸入が解禁され、それまで国内事情だけで高値で取引されていた国産材が、初めて国際価格で扱われるようになり、国産丸太が売れなくなりましたので、自社で製品にして販売しようと、製材工場を立ち上げたわけですね。

小川 製材工場立ち上げの背景には、日本の木材資源調達の変化があったのですか。

手に入る国産材に付加価値を付ける

小川 協和木材様は、組合からスタートされた方々とは異なり、単体企業としてご創業されています。

佐川 聞いた話ですけれど、戦時中の統制経済のもとで県単位の組合を作って加工と流通が統合されたそうです。戦後、そこから再開された方が確かに多かったようです。同時に、戦後復興を担う沢山の個別企業が誕生しましたが、戦後需要華やかなりし時代を過ぎて解散したケースも多くあったと思います。私どもが所属する福島県木連でも、傘下事業者はかつての数分の一に減っています。

私などは、その後の世代で、当初から輸入材との価格競争に晒されながらも、「いずれは国産材時代が来る!!」という言葉信じて続けてきたようなものです。

日本の国土の 3 分の 2 以上が山林である以上、そこに入れば何らかの仕事になるだろうという考えで、山に育つ林産物にいかにつ加価値をつけて市場に出すか、そういう考え方でスタートしたところが、他社と異なる視点だったかもしれません。

小川 資源としての林産物に付加価値をつけて世の中に出していくことを大きな儀、使命として、大事に使っていかうというお考えは、お父様が創業された時点からだったのでしょうか。

佐川 そうですね。父が始めた時から、一番身近にある、山に豊富な、利用しやすい資源を利用しようという考えがありました。

ですから、まず、戦前に植林して生長が遅いために戦時中に切られずに残っていた檜材を利用しました。その後、伐採後に自然に生えて育った松を加工し、さらに、戦後に植林して育った杉を加工して製品を作るようになりました。その時々豊富な手に入る資源を商品化するという考えで続けてきました。

小川 単なる営利追求でなく、資源を大事に、しっかり利用しようという姿勢ですね。

佐川 邪道かもしれませんが、お客様のご要望に沿うというよりは、まず資源があって、そこを発想の原点としてきました。

小川 結果的には、その視点が功を奏して今日の協和木材様があるということですね。

佐川 戦時中、建築資材や燃料として消費され、日本の山の木は伐採するだけで、全く植林されない状態でした。戦後、昭和 20 年代は、海外からの引揚者に仕事を与え、同時に平地林を開墾して畑にした時代です。

先日、林野庁の方から全国植樹祭誕生の経緯を伺いましたが、戦後、山が荒れて洪水が頻発する、その打開策として、予算に限りのあった林野庁が、全国的に植林の機運を高めるために、天皇后両陛下御臨席のもと全国から参加者が集まって昭和 25（1950）年に始めたそうです。

小川 象徴的なお話ですね。



佐川 その資源が、今、収穫期にきているという環境にも恵まれていると思います。

時代の変化に合わせ国産材一筋

小川 協和木材様で扱っていらっしゃるのは福島県産材が中心ですか。

佐川 福島県白河郡は、茨城県、栃木県との県境に接しています。私どもは、この三県境にある八溝山の北側の麓に創業し、栃木県・茨城県北部の材と福島県南部の材を使ってきました。

小川 用途は主に住宅資材向けですか。

佐川 はい。松を扱っていた時代は梁がメインでした。檜の時代は柱と土台でした。

小川 製材品から集成材利用へと変わっていったのは、いつ頃からですか。

佐川 プレカットの普及とほぼ同じ歩みだったと思います。

ちょうど当時、少しずつプレカットが出始めたのと、もう一つには、米ツガの柱が価格高騰と品質低下もあって、杉の柱をそれに代わるものとして、私どもは平成元年

に杉材専門の量産工場を造りました。これが、最大の転機となり、事業規模拡大へと繋がりました。

それで米ツガとの競争に勝って、ようやく“国産材時代が来る”と思ったのですが、その直後に欧州からホワイトウッドの集成材が圧倒的な品質と価格競争力が入ってくるようになりました。

残念ながら杉のグリーン材ではプレカットに手作業も必要になるということで徐々に欧州材に押されてしまいました。

小川 協和木材様は、平成 29（2017）年に山形県新庄市で杉集成材工場を稼働開始されましたね。

佐川 これは、ホワイトウッドの集成材柱が圧倒的な需要を獲得しているなかで、ほぼ同品質・同価格の杉の集成材柱を市場に出そうとの思いでスタートしました。

小川 すでにハウスメーカーさんに採用されているそうですが、国産材資源の利用・普及の大切さに共感され、採用されているということでしょうか。

佐川 まず、ホワイトウッド集成材同等の品質を実現できたことが大きいと思います。同時に国産材は輸入材と違って為替変動による影響を受けませんので、為替リスク対策にも少なくとも 50%を採用していただくようにお勧めしています。また工場も近いので安定して供給できる点を、大きな訴求ポイントとしています。

小川 そこが、国産材の優位性を際立たせる大きな PR ポイントですね。

佐川 さらに新しく塙工場に檜の集成土台用ラインも増設しましたので、次は檜の土台を、将来的には檜土台＋杉柱をセットで販売する方針で進んでいます。

また 2 × 4 用ディメンションランバーも国産の杉で作りました。ここにきてようやく国産の杉材が大径木化したことで大断面の平角もとれるようになりましたので、梁・桁の国産材化にも取り組んでいます。

小川 時代背景、経営環境も変わるなかで臥薪嘗胆も経験しながら、国産材の有効活用・普及に取り組んでこれ、今後さらに利用率を高めることをお考えですね。

佐川 国内消費の全量を賄えるほどの木材資源が日本にはあります。これを利用しないのはもったいないと思います。

小川 今後、国産材を普及していくうえで危惧されるのは、木を伐る人や、山林の手入れなどの人手不足が深刻さを増すのではないかと点ですが、いかがですか。

佐川 林業労働者の高齢化は、確かに進んでいます。ただ、ここに来て、急速に機械化が進んでいます。山に入って夏・冬の厳しい環境下、手作業で伐採作業をするのでは若い人は入ってきません、ヨーロッパ並みの冷暖房付きキャンピングの中で作業ができる機械が普及すれば、若い人が入ってくると思います。基本的に、木を伐り出す作業については、さほど心配はないと思います。

ただ、高齢者が所有する山林を自分で収

穫した後に再造林できないというケースが増えています。

小川 再植林が十分にできていない、ということですか。

佐川 伐った後、いかにして苗木を植えて育てるか、そこが課題です。

S 構造の木質化に WOOD.ALC

小川 佐川社長は、一般社団法人日本 WOOD.ALC 協会理事も務めていらっしゃいますね。木質材料の活用と多様性につながるとされる WOOD.ALC について、お聞かせいただけますか。

佐川 WOOD.ALC は、低炭素社会を達成させる ALC（Attain Low Carbon Society の略）木材という意味です。建築材料として一般的な鉄やコンクリートに比べ、さまざまなメリットがあり、自治体や国が進めようとしている低層公共建築物の木質化にも貢献する、杉を活用した外壁用集成材パネルです。

小川 木質の外壁材ですか。

佐川 はい。平成 22（2010）年 10 月に施行された「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律（通称：公共建築物等木材利用促進法）」に基づく、間伐材の利用用途開発から誕生したもので、平成 29（2017）年には、1 時間準耐火（外断熱仕様）大臣認定を新たに取得しました。

WOOD.ALC は、木造・木質化がまだ進んでいない S（鉄骨）構造分野での潜在的な需要の掘り起こしを大いに期待できると思います。

小川 非常に面白い製品だと思います。

佐川 一番簡単な使い方は、昨年開催された ZEH モデル住宅設計コンペのエネマネハウス 2017 で、早稲田大学・芝浦工業大学共同による「1970 年代に建てられた鉄骨造工業化住宅リノベーション提案」にも採用された、鉄骨 ALC 建物のリフォームです。従来の ALC が扱える方であれば WOOD.ALC も同等に使っていただける互換性がありますので、非住宅向けとして需要が伸びることを期待しています。

同時に、建築業界の職人さんが協業できるようなシステムを構築することで建築業界の担い手不足の打開策としても有効であり、新しい物流を構築できる可能性もあると思います。

小川 協会会員は、どのような方々ですか。
佐川 従来の ALC 施工会社はじめ、建築会社、WOOD.ALC 加工会社など、すでに全国 36 社の会員がいます。

小川 住宅への国産材活用と併せて、非住宅の木造・木質化に活用できる製品開発も進めていらっしゃるということですね。

今後について明確なビジョンをお示しいただきましたので、私たちもその一助となるご協力をさせていただきたいと思います。

適材適所の国産材の有効活用と、今後の可能性について詳しいお話を聞かせていただき、本日はありがとうございました。

JK 木構造・木質化グループ 事例ご紹介

JK 木構造・木質化グループは、総合力を発揮する「トータルシステム」で、皆様のお手伝いをしています!!
ジャパン建材では、木構造建築課を中心に、木構造建築物の構造計画から施工までを手掛けています。
詳細につきましては、各営業所または木構造建築課までお問合せください。

ジャパン建材株式会社木材部木構造建築課 受注現場紹介
陸前高田市立気仙小学校 新築工事

陸前高田市気仙小学校は、津波により全壊となるなど甚大な被害を受け、長部小学校も地震により耐震性能が低下する等の被害を受けました。
そこで小学校の統合化を目指し、「陸前高田市立気仙小学校」として建設がスタートしました。普通教室・特別教室・体育館・ホール・屋外倉庫棟からなる建物です。
元請は株式会社佐武建設、ジャパン建材は木質構造部分の工事までを請け負っております。カラ松集成材（岩手県産）杉集成材・無垢材（陸前高田市産）を使用しております。また一部屋根には J パネルを採用、軒・天井の表し仕上げもあります。集成材製造・加工・施工図はグループ会社の秋田グルーラムが担っております。
木構造建築課の担当は急成長中の若手社員、大塚が 2 月から工事完了の 8 月まで常駐の予定です。順次工事は進んでおり、特別教室が完成し、現在普通教室を建設中です。
2 月 6 日に陸前高田市立気仙小学校の 6 年生が校舎に使用する梁にメッセージを刻み、新しく生まれ変わる母校に足跡を残しました。写真はその時の様子です。

現地担当者より

特別教室棟の建方は 3 月初旬に終え、現在は普通教室棟の建方を行っております。最大高さ 8m ある集成材パネル等、各棟構造体が化粧になる部分が多く、細心の注意を払いながら建方を進めています。引き続きよりよい建物になるよう努める所存です。（木構造建築課 大塚）

現 場 名	：陸前高田市気仙小学校新築工事
所 在 地	：陸前高田市気仙町（今泉地区土地区画整理事業地内）
用 途	：学校（各種教室・体育館他付帯設備）
施 主	：陸前高田市
元 請	：株式会社佐武建設
設計・監理	：綾井・土屋・IEE 設計企業体
木部 施工	：ジャパン建材株式会社 木構造建築課
構造・規模	：W・RC・一部 S、地上 2 階
延床 面積	：延床 4,561.27㎡、建築面積 3,955.85㎡
使用 材料	：集成材（製造加工：秋田グルーラム株式会社） 米松・カラ松（岩手県産）・杉（陸前高田市産）



「陸前高田市立気仙小学校の卒業生と現場スタッフ」
卒業記念に陸前高田市立気仙小学校の卒業生が梁にメッセージを刻み、足跡を残しました。

木質構造の設計情報を共有する会一般社団法人設立 2 周年記念公開セミナー報告

WOOD DESIGN、Casual 感覚でつくる非住宅木造建築と題して若手気鋭の講師を迎え、新木場タワー 1 階大ホールにて 4 月 20 日にセミナーを実施しました。
HP 及び各会員の関連先等積極的に案内をしていた 1 週間前で 180 名を突破、職種・エリアともに広範囲の方から申し込みをいただき主催者・事務局としては非常にうれしい次第です。政令指定都市木材利用推進議員連盟が 20 都市 167 議員の参加で 12 日に発足しました、当セミナー（木構造テラスの活動）の後押しとなることも期待できます。
当日午前中には木構造テラスの会員有志で結成されております実務社会が開催され、25 名の会員の参

加の元、実設計事例を参考に研修会が開催されました。一歩一歩ではありますが木構造テラスは確実に前に歩き出しており、今後もよりテラスの場を提供できる環境を作り出したいと考えております。
Casual 感覚でつくる非住宅木造建築の意匠デザイン小見山陽介先生（京都大学大学院工学研究科建築学専攻助教）、Casual 感覚でつくる非住宅木造建築の環境デザイン谷口景一郎先生（東京大学大学院工学系研究科建築学専攻特任助教）、Casual 感覚でつくる非住宅木造建築の構造デザイン山田憲明氏（山田憲明構造設計事務所代表）3 名の講師の方の公演は非常に理解しやすく実践の話題提供が多く、参加者皆様熱心に聴講されておりました。



ご興味のある方は是非“木構造テラス”の HP まで遊びに来てください。
<http://www.t-e-terrace.com/>



第 39 回ジャパン建材フェア 「住まい方・暮らし方コーナー」 連動企画
ホントに安心？ 耐震ポイントチェック！

第39回ジャパン建材フェアの「住まい方・暮らし方コーナー」では、M's 構造設計の佐藤先生監修のもと、耐震構造についての展示を行いました。施工する際に陥りがちな勘違いを取り上げた展示は、多くの来場者に反響をいただきました。

今回は、会期中に展示したテーマの中から「筋かい」のポイントについて、展示内容の紹介とともに解説します。



第 39 回ジャパン建材フェア「住まい方・暮らし方コーナー」入口

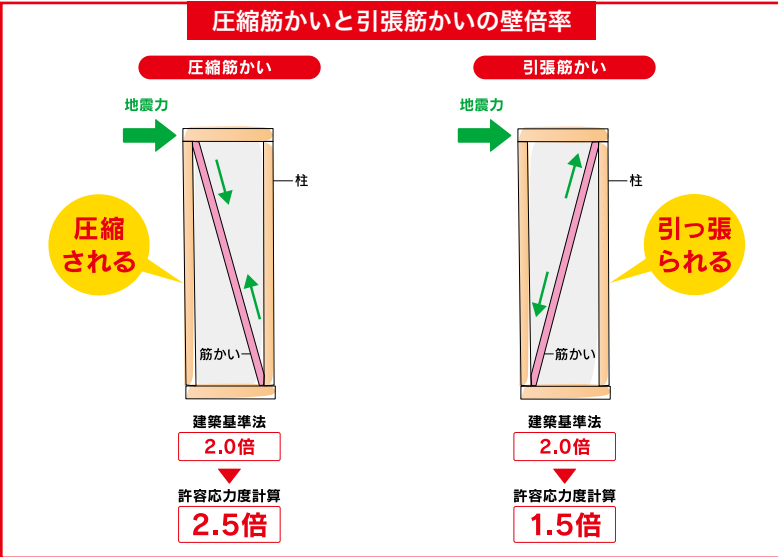
■耐震構造を高めるために、
筋かいで注意したいポイントとは？

下の写真は、会期中実際に展示していた筋かいゾーンの写真です。3×6 の壁 3 枚に対し、3 枚とも全て筋かいが施工されていますが、耐震構造を考慮する場合はもうひとつ工夫したいところです。では、この耐力壁の耐震構造を高めるためには、どんな点に注意すると良いでしょうか。

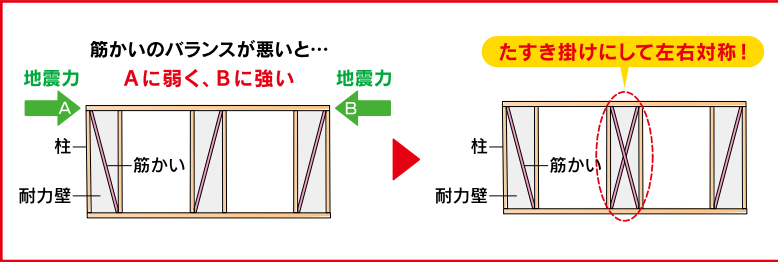


■筋かいの向きに注意しよう

筋かいには、「圧縮筋かい」と「引張筋かい」という方向性があります。建築基準法では、圧縮と引張の壁倍率の平均値をとり、同じ壁倍率で計算を行います。しかし、耐震構造を高めるのであれば、より詳細な計算をする許容応力度計算の数値を考慮しましょう。



許容応力度計算によると、圧縮筋かいの壁倍率は2.5倍、引張筋かいの壁倍率は1.5倍になります（30mm×90mmの材料を使用した場合）。筋かいは左右対称に配置するのが基本なので、今回の展示模型の場合、真ん中の筋かいをたすき掛けにするのが理想です。



編集後記
熊本地震で倒壊した物件の中には、筋かいの量は満たしていても、方向性が考慮されていないものもあったようです。今回の展示をきっかけに、許容応力度計算を用いた物件がもっと増えたら良いなと思いました。

ドア用 WIND SCREEN

玄関ドア用ハイグレード通風スクリーン

ペットが爪を立てても大丈夫
タフでオシャレな通風スクリーン

微細で堅牢なアルミ
パンチングパネルを採用

風を通して虫の侵入は
シャットアウト

カギ付きロックを
標準装備

ネットは破れないため
メンテナンスフリー！

ネット部分は口径1.5mmの
微細な穴を開けた
パンチングアルミを使用

ジャパン建材株式会社

〒136-8405
東京都江東区新木場 1-7-2 新木場タワー 11F
TEL：03-5534-3716 FAX：03-5534-3856

FUTAWA∞FORUM 第21回 雙環フォーラム

小川 × 小川の哲学対話

哲学者
おがわ ひとし
小川仁志氏

働き方・地域を変える！

「住」をめぐるマネジメント

雙環フォーラム初の対話形式で
気鋭の哲学者 小川仁志氏と
ジャパン建材社長の「W」小川が
「住」をキーワードに
働き方・マネジメントを
語ります！

哲学者
おがわ ひとし
小川仁志氏

1970 年、京都府生まれ。
哲学者・山口大学国際総合科学部准教授。
京都大学法学部卒、名古屋市立大学大学院博士後期課程修了。
博士（人間文化）。商社マン（伊藤忠商事）、公務員、フリーターを
経た異色の経歴。徳山工業高等専門学校准教授、米プリンストン大
学客員研究員等を経て現職。大学で新しいグローバル教育を牽引す
る傍ら、商店街で「哲学カフェ」を主宰するなど、市民のための哲
学を実践している。また、テレビをはじめ各種メディアにて哲学の
普及にも努めている。E テレ「世界の哲学者に人生相談」には指南
役として出演。専門は公共哲学。著書も多く、ベストセラーとなっ
た『7 日間で突然頭がよくなる本』（PHP 研究所）はじめ、海外で
の翻訳出版も含めると 100 冊以上。

ジャパン建材（株）代表取締役社長
おがわ あきひろ
小川 明範

日時

2018 年

5/11 金

会場

JKホールディングス株式会社
新木場本社ビル 1F 大ホール

〒136-8405
東京都江東区新木場 1 丁目 7-22
TEL：03-5534-0651 / FAX：03-5534-3855

開催

15:30
講演会の部 15:40 ~ 17:10
情報交換会 17:20 ~ 18:50
(懇親会)

主催

ジャパン建材株式会社
株式会社ハウス・デポ・ジャパン

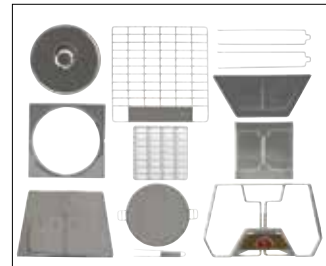
詳細は営業所担当者までお問い合わせください。

同時にいろいろ料理できる。多機能万能調理グリル LOGOS the KAMADO

株式会社ロゴスコーポレーション

【全てがこれで！K・A・M・A・D・O】
竈（かまど）と窯（かま）がドッキング。
お米がおいしく炊け、鍋料理は食材を入
れても温度が急低下しません。

【ピザ釜やオープンとしてもつかえます】
オープン料理に適した「カマ」、燃焼の
対流熱で調理する、石窯のしくみ。独自の
ピラミッド10面体構造が、効率よく
対流熱の発生を促進させます。ピザも対
流熱で加熱され、短時間で調理でき、ま
るで石窯で焼いたようにおいしく焼き上
がります。燃料の火を安定させ、本体上
部に天蓋を取り付ければ準備完了です
（かまど使用時は鍋をセット）。天蓋の温
度計で温度を確認できます。



熱を逃がさず鍋を周囲から効率よく包み込む、日本の
料理文化、かまどのしくみ。鍋料理と、オープン料理
が一度にできる「KAMADO 構造」で、アウトドアラ
イフがさらに楽しめます。

【もちろん焚火台やダッチオープン調理も楽しめます】
本体上部の天蓋を取り外すと、10 インチのダッチオー
ブン（別売り）をセットできます。

※ダッチオープンの形状によっては使用できない場合があります。

【コンパクト収納】

パーツは折りたたみ式でかさばりません。
組み立ては、パーツを開いて重ねるだけ。
複雑な組み立ては一切ありません。

※キャリーバッグ付きで持ち運びも簡単です。

※対応可能網【別売】
ピラミッド FD ステンレスネット L（在庫限り）

総重量：（約）8.5kg
サイズ：【組立時】（約）51.5×51×57cm
【天 穴】（約）26cm
【ピザプレート】（約）24.5cm
【開口部（上部）】（約）29×14.5cm
【開口部（下部）】（約）19(26.5)×8.5cm
収納サイズ：（約）48.5×39×12.5cm
主 材：ステンレス、スチール
※製品は予告なく仕様を変更する場合があります。

地震・火災・湿気に強い / 調湿建材モイスでつくる健康な住まい モイスTM 耐力面材 / モイス NT 内装材材

AICA

<http://www.aica.co.jp>

アイカ工業株式会社

【モイス TM 耐力面材】

MOISS は天然素材の鉱物が主成分。
主に、天然素材のみで造られているため、
有害物質を含みません。
モイス TM は無機素材なので火災に強
く、木のような粘り強さで地震の揺れや
風圧なども受け止め、建物を守ります。



多機能建材
モイス
Moiss TM
モイスTM耐力面材

【モイス NT 内装材】

湿度は高すぎても低すぎても不快なも
の。また建物にとっても、過度の湿気や
乾燥は傷みの原因になります。
モイスは多孔質で湿度をコントロール
し、カビやダニの繁殖を抑制。爽やかに
快適な室内環境を生み出します。

多機能建材

モイス
Moiss
モイスNT内装材

結露を
軽減
消臭
機能
カビに
強い
シック
ハウスにも
効果



住宅完成保証の新しい常識

施主様の建築資金を
全額保護

家づくりに必要なお施主様の建築資金を
すべて直接お預かりし、
建築中の工事の中断や事故の有無にかかわらず
取引会社さん・職人さんへ
直接支払される唯一のシステムです。

株式会社ハウス・デポ・ジャパン
www.heart-system.org



ハウス・デポ・パートナーズは
家づくりを住宅ローンと各種保険で応援します。

【フラット35】子育て支援型・地域活性化型の概要

子育て支援や地域活性化について積極的な取組を行う地方公共団体と住宅金融支援機構
が連携し、住宅取得に対する地方公共団体による補助金交付などの財政的支援とあわせて、
【フラット35】の借入金利を一定期間引き下げる制度です。

【フラット35】子育て支援型・地域活性化型は、地方公共団体が住宅金融支援機構と連携
している場合にご利用頂けます。
連携する地方公共団体はフラット35サイト(www.flat35.com/loan/flat35kosodate/index.html)

■子育て支援型・地域活性化型の金利引下げプラン（平成31年3月31までの申込受付分に適用）

●【フラット35】子育て支援型・地域活性化型を単独で利用した場合

金利引下げプラン	金利引下げ期間	金利引下げ幅
【フラット35】子育て支援型 【フラット35】地域活性化型	当初5年間	年▲0.25%

●【フラット35】子育て支援型・地域活性化型と【フラット35】Sを併用した場合

【フラット35】S （金利Aプラン）との併用で	当初5年間 年▲0.5% 6年目から10年目まで 年▲0.25%
【フラット35】S （金利Bプラン）との併用で	当初5年間 年▲0.5%

お問合せ・お申込みは……

【三井物産・JKホールディングスグループ企業】

株式会社 ハウス・デポ・パートナーズ

フリーダイヤル: 0120 - 887 - 800

Mail: hdp@housedepot-p.co.jp

担当: 営業部 尾崎、伊東、北野、荒谷、伊坂、村田、海老原、綱田

貸金業登録番号 関東財務局長(1)第01508号

日本貸金業協会会員 第005893号



イチオシ! Bulls

Bulls **超軽量** 金属屋根シリーズ

紫外線や大雨、台風などからマイホームを守ってくれている“屋根”。住まいにとって、とても重要な役割を担う“屋根”ですが、お施主様は屋根がどのような状況であるかほとんど気にせずに暮らしています。また、不具合や劣化が目につきにくく、住まいのつくり手側である私たちにとっては、日々点検をすることが難しい箇所でもあります。屋根の点検時期の目安は新築より10年ほどであり、点検にともなって対策を施すことが重要となってきます。春一番が過ぎ、寒い季節に雨風を耐えてきた屋根の点検は、気候の良くなってきた今がチャンス！今回は新築にはもちろん、点検後のアフターフォローとしてお使い頂ける Bulls 商品をご紹介します。雨漏れなどの大事に至る前に、今一度、屋根のことを考えてみませんか？

Bulls **超軽量** 金属屋根シリーズでリフレッシュ！

和の趣を醸し出す、最先端の金属成形瓦
メタルルーフ



シャープでシンプルなデザイン
リファーナ



天然石の美しさ
オベロン



ポイント1 遮熱塗料と裏張断熱材で室内温度低減

太陽の輻射熱を反射！
部屋内への伝播熱量を
大幅に削減します。



ポイント2 ガルバリウム鋼板の3倍以上の耐食性で塩害に強い

「超高耐久性ガルバリウム鋼板」エスジーエル®を原板に採用！！
【穴あき25年保証】 - 海岸500m以遠 -

※エスジーエル・SGLは日鉄住金鋼板株式会社の登録商標です。
※保証には別途当社の定める保証規定があり、申請手続きが必要になります。

ポイント3 屋根材の中で一番軽く躯体に負担がかからない

Bulls 担当者のヒトコト

10年を過ぎた屋根を何もせずに放置すると、様々な不具合が起こる可能性があります。そこでなぜ「金属屋根シリーズ」を勧めるか？3つの代表的なリフォーム方法を簡単に比較すると、①屋根を塗装する場合、約10年周期で塗装＋足場設置しなければならず、都度コストがかかり大変。②葺き替えは、屋根工事に足場代もかかり廃棄コストも掛かるので、どうしても高くなる。③ポイントは「カバー工法」。

「カバー工法」とは、既存の屋根の上から軽い板金属屋根材で覆ってしまう方法です。平板化粧スレートやトタン屋根などは10年程で、クラックや塗装の塗膜剥離が起こる可能性があります。今回おすすめする板金属屋根材は、エスジーエル鋼板といって、ガルバリウム鋼板の3倍以上の耐食性があり、塩害に強い屋根材です。また、海岸より500m以上での施工であれば、25年の穴あき保証があり、遮熱フッ素塗装で色褪せもしにくいです。メンテナンスコスト低減でお得にリフォームしてみたいはいかがでしょうか！！

屋根と一緒に
考えよう！

屋根の修繕時、気になる雨樋も一気にリフレッシュ！

雪に強く、雨だけを取り込む設計

元旦内樋

屋根との一体感を保ちながら落ち葉などから
雨樋を守り、水づまりを防ぐ

ポイント1 新築・リフォーム問わず施工可能

金属屋根、化粧スレート屋根、瓦屋根にも
取り付けられ、リフォームにも最適！

ポイント2 0.5mmのガルバリウム鋼板で優れた耐久性

ポイント3 鋼板製の「落ち葉除け」でゴミの詰まりがなくなりメンテナンスの簡素化

雨どいは建物の腐食を避けるなど重要な役割を担っています。しかし落ち葉による詰まりや、積雪荷重による破壊等のトラブルも多くあります。”元旦内樋”は、屋根との一体感を保ちながら落ち葉などから雨樋を守り、水づまりを防ぎます。また、雪にも強く、耐久性に優れた金属材料を使用し、樋の寿命が向上。屋根と一体化した軒先がシャープで美しい仕上がりの”元旦内樋”は、住宅デザインのアクセントにもなる、新発想の雨どいです。



お問合せは、ジャパン建材各営業所までお願いします。

合板のプロがおすすめする
ジャパン建材の商品紹介 ①

エコブランド J-GREEN

今月のおすすめ商品は「国産桧 JAS 普通合板」

当社では昨年度より木材製品における環境配慮型プライベートブランド商品、「J-GREEN」の販売展開を推進しています。昨年5月に施行されたクリーンウッド法（合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律）を背景に合法性が担保された木材製品の取り扱い推進は企業の社会的責任として求められています。

「国産桧 JAS 普通合板」は時代の潮流に調和する国産材木質内装合板です。木材としての狂いが少なく、加工しやすい国産桧を使用しています。独特の芳香があり、木肌は上品な白さがあります。桧特有の脱臭・防蟻性能もあり、様々な用途での使用が可能です。

より多様化した用途で国産材合板を世の中に広めていくことが社会性・経済性の観点より有益であると考えておりますので、J-GREENの「国産桧 JAS 普通合板」をみなさまの手で各所にお使いください。



桧合板板面

有孔加工 及び クリア塗装

自然着色塗装仕上げ

- 規格：5.5mm×910×1820、9mm×910×1820
- こんなところにおすすめ…腰壁、天井、収納、押入れ、看板等
- 表フェイスは突板ではなく“単板”仕上げ

J-GREEN ホームページ開設！<http://japan-green.jp/>

商品情報掲載、商品施工実績あれば
是非ご提供を宜しく願致します。

商品のお問い合わせは最寄りの当社営業所までご連絡をお願いします。



合板 天気図



晴れ

ジャパン建材 合板部
部長 猪爪 清和

新設住宅着工戸数

2018年2月度は69,071戸（前年同月比2.6%減）で8カ月連続の減少となった。その内、木造住宅については38,340戸（同比3.2%減）で8カ月連続の減少となっている。季節調整済年率換算値は92.6万戸で前月比8.2%増、3カ月ぶりの増加となる。

利用関係別では持家が20,013戸（同比6.1%減）で先月の増加から再びの減少、貸家は29,420戸（同比4.6%減）で9カ月連続減少、分譲は19,023戸（同比3.4%増）で3カ月ぶりの増加となった。分譲の内訳はマンションが8,267戸（同比9.3%増）で3カ月ぶりの増加、戸建ては10,560戸（同比1.3%減）と2カ月連続の減少となった。分譲住宅は増加したが、持家及び貸家が減少したため、全体で前年同月比2.6%の減少となった。

建築工法別ではプレハブが10,063戸（同比8.0%減）で9カ月連続の減少、2×4は8,255戸（同比3.0%減）で先月の増加から再びの減少となった。

国内合板

2月の生産量は25.3万㎡（前月比98.4%、前年同月比102.6%）と発表された。その内、針葉樹合板の生産量は24.3万㎡（同比98.9%、103.8%）となり、出荷量は23.8万㎡（同比94.4%、102.8%）となった。出荷量は12カ月ぶりの24万㎡を割り込んだが、

前年同月比102.8%で推移しており、各社増産体制は継続している。

国内針葉樹合板

高水準の出荷が続いている。若干落ち着いた動きではあるが、需給バランスは取れている。増産体制は維持されているが、GW連休に各社メンテを行なうため、稼働日が少なくなり生産は減少すると思われる。現状のメーカー在荷量を考慮すると、5月も同様の状況が続くと思われるが、今後は少し落ち着いた動きになるとと思われる。国内メーカーは今後の需要に備えるため、在庫をまだ持ち上げる必要があり、相場は維持されると思われる。

輸入合板

2月度入荷量は23.7万㎡（前月比86.5%、前年同月比114.7%）となった。国別入荷量はマレーシアが8.6万㎡、インドネシア7.9万㎡、中国が5.5万㎡となっている。

現地マレーシア、インドネシア共に天候回復により、原木事情は多少改善傾向であるが、大量な入荷は考えにくい状態である。現在も現地価格が上昇基調であることに変わりはなく、為替の動向は無視できないが、荷動きにかかわらず価格は上昇傾向にあると考えられる。

国内合板、輸入合板ともに落ち着いた相場場で晴れの状況が続くと思われる。

JK お客様
センター

お聞かせ下さい。お客様の声！
フリーダイヤル 0120 (563) 568 受付時間：平日 8：30～17：20
土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏季休暇は、受付を休ませていただきます。

企画
発行

ジャパン建材株式会社 営業推進部

〒136-8405 東京都江東区新木場 1-7-22
TEL:03-5534-3711（代） FAX:03-5534-3855（代）
URL:<http://www.jkenzai.co.jp>